（３）教育、文化の振興に関する事業

雷電為右衛門生誕 250 周年記念　どんどこ巨大紙相撲大会

取組に至る背景・事業の目的

東御市は、史上最強の力士と名高い雷電為右衛門の生誕地であるが、これまで雷電の顕彰活動は一部の人たちによってしか行われずにいた。平成 29 年は雷電の生誕 250 年にあたるため、当事業を通じて同市の大きな歴史的文化遺産としての認識をさらに広める。

事　業　内　容

①　巨大紙力士制作ワークショップ（10／14、10／15）
　家族、学校のクラス、企業、地域住民の団体、高齢者施設などがチームを組んで、雷電為右衛門と同じ身長 197 センチの紙力士を制作した。

②　巨大紙相撲大会（11／11）
　土俵、吊り屋根のほか、行司、審判、呼び出し、部屋割りなど、できる限り大相撲を模して開催し、ワークショップで制作した紙力士の取組を行った。

【相撲大会　白熱する会場の様子】

事　業　効　果

・これまで、雷電に対する市民意識が低かったことから、顕彰活動もなかなか光があたらなかったが、市民には雷電の存在がより身近になった。
・多くのマスコミにより取り上げられたことによって、県内外に東御市と雷電為右衛門をＰＲすることができた。
・ワークショップには 190 人、相撲大会には出場者、見学者を合わせて 450 人が参加し、世代や様々な立場、役割を超えた市民交流と一体感を創出することができた。
・商工会や商店、企業、団体からの運営協力や景品協賛などが多数得られた。
・文化芸術が地域の課題を解決するための大きな力の１つであることを理解してもらった。
・子どもたちに雷電の存在や、相撲の伝統礼節を伝えることができ、また制作や大会参加を通じて、他者とのコミュニケーションを行いながら、協力して創りあげることを体験させることができた。
・子どもたちも紙力士の制作から大会、神社への奉納までのプロセスに継続的に関わることで、単なる参加者ではなく地域社会における重要な一員であることを味合わせることができた。

工夫・苦労した点、課題、今後の取組など

・取組数や景品の配分等について、次回は参加者へのアンケートを実施し、運営に反映させる。
・小学校と連携を図り、雷電学習、ちゃんこ鍋調理実習なども設け、一環した郷土学習に繋げる。
・実動人員が少なく苦労した反省点を活かし、雷電の顕彰活動に熱心な団体に事業を引き継ぎ、より多くの参加、協力を募っていく。
・いずれは、大会の開催地域を増やし、事業のすそ野を広げていきたい。

【選定のポイント】
紙相撲力士の制作から大会の開催まで、子どもから大人までの多くの住民等が参加し、地域に活気を生み出すことができた。また、企業の協賛・協力も得られていることから事業の継続が見込まれ、今後も地域に根付いた取組となることが期待される。

団体名　丸山晩霞記念館協力会（東御市） 連絡先　会長　　柳沢　正和 ０２６８－６２－３７００ Doragon.fry9@gmail.com	事業タイプ　　ソフト事業 事 業 費　　５９７，６１２円 支援金額　　４７８，０００円